

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191500034		
法人名	有限会社 さくら苑		
事業所名	グループホーム さくら苑		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町仏ノ原甲1254番地2		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成23年2月25日	外部評価確定日	平成23年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然や四季を、居ながらにして感じられる様に、窓を大きく取り、明るく開放的に保てるような施設作りを心掛けた。また、周りをバルコニーで囲み、いつでも戸外に居るような雰囲気味わえるような空間を設けている。緑あふれる中でゆったりと利用者様が過ごせるように、常に玄関前には季節の花を絶やさないようにしている。広い畑や花壇も確保し、草木や季節の野菜、果実、花など利用者様と育て、楽しめるような機会を作りたいと思っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>長閑な自然の中に建つホームである。近くに民家は少ないが、地域との関わりを求め、行事等にも積極的に参加している。勤務に就いた職員は、まず入居者ひとりひとりと挨拶を交わす。それは、入居者のその日のコンディションを推し測るための大切なプロセスとなっている。入居者の細かい変化には、日頃の状態を把握しておかないと気付くことは出来ない。職員は入居者に寄り添いながら、互いをチームワークで補い、うまく連携している。</p>
--

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気づき・目くばり・心くばり」を基本に、利用者様を中心とした、一人ひとりあるがままを大切にしたい心のもった介護と、地域の高齢者にも心に優しい介護を理念に毎朝唱和し、共有につなげている。	「気づき・目くばり・心くばり」を基本に、利用者様を中心とした、一人ひとりあるがままを大切にしたい心のもった介護と、地域の高齢者にも心に優しい介護を理念に毎朝唱和し、共有につなげている。	理念は開設時に代表者の思いから生まれている。職員は毎朝の唱和や事業所内の掲示により、意識付けている。入居者へのさりげない見守り等、職員のスムーズな連携にそれが活かされていることが分かる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやクリスマス会など、行事を行うときは近隣の方たちや、地域のボランティアの方たちに参加を呼びかけたり、文化祭など地域行事に参加し、地域との交流に心掛けています。また施設を住所にされている利用者様には地区の区長さんが広報を届けに来られ良い関係が保たれている	夏祭りやクリスマス会など、行事を行うときは近隣の方たちや、地域のボランティアの方たちに参加を呼びかけたり、文化祭など地域行事に参加し、地域との交流に心掛けています。また施設を住所にされている利用者様には地区の区長さんが広報を届けに来られ良い関係が保たれている	自治会に加入し、地区の行事や清掃活動にも積極的に参加している。近隣住民の普段の立ち寄りには少ないが、散歩などで外へ出ると挨拶を交わしたり、話をしたりしている。事業所の催しへの参加もあり、ふれあう機会は増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や、家族の方が気軽に立ち寄れるような雰囲気作りに努め、来苑された際には、認知症の人へのケアの方法など相談に乗るように努めている。	地域の方や、家族の方が気軽に立ち寄れるような雰囲気作りに努め、来苑された際には、認知症の人へのケアの方法など相談に乗るように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や区長、民生委員、町職員と、今年からは地区の老人会長にも参加してもらい、ホームの活動や行事計画を報告したり、様々な立場からの意見交換が行われている。出された意見は、職員会議等で報告し運営に活かしている。	運営推進会議では、家族や区長、民生委員、町職員と、今年からは地区の老人会長にも参加してもらい、ホームの活動や行事計画を報告したり、様々な立場からの意見交換が行われている。出された意見は、職員会議等で報告し運営に活かしている。	会議は事業所からの報告だけに止まらず双方向なものとなっている。メンバーの出席率もよい。最近の提案で、ひとり暮らしの老人を招き見学会を具体的に検討している。また、ヒヤリハットの記入で職員に注意を促すことも、この会議で出されたアドバイスである。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは、ホームの運営方法などの相談をしたり、状況を報告したりなどの関係が築かれている。また、包括支援センターで行われる居宅支援会議や勉強会に参加するなど協力関係が築かれている。	町の担当者とは、ホームの運営方法などの相談をしたり、状況を報告したりなどの関係が築かれている。また、包括支援センターで行われる居宅支援会議や勉強会に参加するなど協力関係が築かれている。	運営推進会議のメンバーでもあることから日頃より顔なじみでもあり、協働関係が築かれている。相談事にも実直に対応してもらえる関係が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し、職員会議などで常に話し合っている。玄関は施錠はせず利用者様が自由に出入りされ、職員は一緒に見守りながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する指針を作成し、職員会議などで常に話し合っている。玄関は施錠はせず利用者様が自由に出入りされ、職員は一緒に見守りながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。玄関に施錠はなく、職員は入居者の癖や傾向をつかみ安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。また、近隣住民にも連絡してもらえる関係が出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、高齢者虐待防止法や発見した場合の対応、虐待の種類などの社内研修会を行っている。また、虐待チェックシートを活用し虐待にあたる行為など確認しあい虐待の防止に努めている。	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、高齢者虐待防止法や発見した場合の対応、虐待の種類などの社内研修会を行っている。また、虐待チェックシートを活用し虐待にあたる行為など確認しあい虐待の防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会や、包括支援センターの担当者との話し合う機会を持っている。あんしんサポートや成年後見人を活用している利用者様、今後必要になられる利用者様について相談している。	外部研修会や、包括支援センターの担当者との話し合う機会を持っている。あんしんサポートや成年後見人を活用している利用者様、今後必要になられる利用者様について相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書には相談窓口、担当者を明記している。	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書には相談窓口、担当者を明記している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の声には常に耳を傾け、家族の面会時などには意見や要望を聞くようにしている。また、介護相談員を受け入れたり、契約書には苦情申立先を明記し、玄関にはご意見箱を設置している。意見要望などは職員会議で話し合い運営に活かしている。	利用者様の声には常に耳を傾け、家族の面会時などには意見や要望を聞くようにしている。また、介護相談員を受け入れたり、契約書には苦情申立先を明記し、玄関にはご意見箱を設置している。意見要望などは職員会議で話し合い運営に活かしている。	毎月の利用料を敢えて持参いただくこととし、家族との面談が増えるようにしている。日頃から何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛け、意見や苦情があれば速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や、ケース会議を開催し、代表者、管理者は職員と話し合う機会を設けている。また、気付いた事があれば連絡ノートに記入し会議などで話し合っている。	毎月の職員会議や、ケース会議を開催し、代表者、管理者は職員と話し合う機会を設けている。また、気付いた事があれば連絡ノートに記入し会議などで話し合っている。	毎月1回の職員会議には非番者も出席している。限られた時間を効率よく使うために、意見は各自が事前に別紙で提出している。最近の要望では全介助用の車椅子が購入されたり、転倒防止策として夜間のセンサーマット使用が検討され実施されている。また、研修を受けた職員の発表の場ともなり、そのことは職員の自信へと繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境などの意見要望など聞く機会を設けている。	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境などの意見要望など聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に合わせ、必要な職員には研修会に出席させている。研修会や講演会が開催されるときには案内を出し参加を呼び掛けている。研修会や資格試験の時は勤務時間の調整をしている。	職員の経験や力量に合わせ、必要な職員には研修会に出席させている。研修会や講演会が開催されるときには案内を出し参加を呼び掛けている。研修会や資格試験の時は勤務時間の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ユニット増設時や、新規事業者と相互に訪問し、情報の交換するなど協力関係を築きサービスの向上に努めている。	ユニット増設時や、新規事業者と相互に訪問し、情報の交換するなど協力関係を築きサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、ご本人の思いを大切にしながら安心していただける様、話を聴き理解を深めるように努めている。	サービスの利用を開始する段階で、本人の思いや要望に耳を傾け、皆様と楽しく生活し、安心出来るような関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、ご家族の利用者様への思いを大切に、潜在している不安や要望を信頼して話していただける関係を築くように努めている。	サービスの利用を開始する段階で、家族の方が困っていらつしやる事や、不安な事などに応じながら、信頼関係が保たれるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人がどういう状態にいる事が一番リラックスでき、安心した生活を送っていただけるかを優先した環境作りに努めている。	本人様が触れられたくない事や人生の事など把握して、喜んでもらえる様なサービス等が出来るように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員は、共に支え合い、よりよい生活状態を保てるように良好な関係を築いている。	本人の今までの人生で、触れてはいけない所には接することなく、穏やかに見守りながら関係を築けるように努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご本人の支援とご家族の支援をしながら、三者が良く話し合い、支え合える関係を築いている。	家族や友人の面会等は、共に喜び充実感を感じてもらおう。また、面会の無い方の不安や寂しさを考え、ひとつの家族として支え合う事が出来るように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や、ご家族の訪問、お便りなどで、いつでもそばに家族がいらつしやる安心感を持っていただけるよう、支援に努めている。	入所前の場所や自宅への訪問(ふるさと訪問)を実施したり、穏やかな態度で昔話などを話し合えるように努めている。	入居しても今までの生活の延長線上であるよう、電話や手紙での連絡を取り持つなど繋がり継続できるよう支援している。自宅を訪れたり、墓参りに行ったり本人の希望を尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関わり合いを良好に保てるように、共通の遊びや思い出などで、和やかな雰囲気づくりを行うように努めている。	年齢的な考えの違いや、育ってきた環境もそれぞれ違うので、話し合う時は共通で皆さんが楽しめるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、同法人内のデイサービスや宅老所の案内など、困ったことがあればいつでも相談や支援が出来るように取り組んでいる。	当ユニットでは、退所された利用者様は現在のところないが、この先サービス終了の利用者様や家族の方からの相談時は積極的に相談や支援に取り組んでいきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、利用者様とのかかわりの中で、一人ひとりの思いを感じ取り、ケース会議の中で検討をし、本人本位の生活が出来るようになっている	職員は、利用者様とのかかわりの中で、一人ひとりの思いを感じ取り、ケース会議の中で検討をし、本人本位の生活が出来ようになっている	職員は入居者の思いや意向についても注意深く把握に努めている。目線を合わせひとりひとりと挨拶を交わすことから仕事を始め、日頃の観察を怠らない。そのため細かい変化への気付きは早い。そして、言葉にじづらい思いも汲み取ろうと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人または家族関係者により話をきき、入居者一人ひとりの生活歴、生活環境の把握に努力している	入居者本人または家族関係者により話をきき、入居者一人ひとりの生活歴、生活環境の把握に努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの行動を見守り、介助する中で変化や異常にすばやく気づけるようにしている	入居者一人ひとりの行動を見守り、介助する中で変化や異常にすばやく気づけるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族の意向を聞き、利用者本位の介護計画を作成し1~1ヶ月おきのケース会議・ミーティングを開催し計画の検討をしている	入居者、ご家族の意向を聞き、利用者本位の介護計画を作成し1~2ヶ月おきのケース会議・ミーティングを開催し計画の検討をしている	本人や家族には日々の関わりの中で思いや意見を聞き暮らしを反映した介護計画となっている。計画の見直しは設定期間に捉われず、変化があれば臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの日々の様子、身体状況を介護計画にそって個別の記録、記入をし、スタッフが計画の内容を常に把握出来るようにしている	入居者一人ひとりの日々の様子、身体状況を介護計画にそって個別の記録、記入をし、スタッフが計画の内容を常に把握出来るようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の行事に参加したり、また、帰宅願望が強い入居者に自宅まで付き添い落ち着かれるまで過ごした	地域の行事に参加したり、また、帰宅願望が強い入居者に自宅まで付き添い落ち着かれるまで過ごした		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや民生委員には、運営推進委員会に出席してもらい、必要に応じ相談や助言を受けている。介護相談員を受け入れるなど協働に努めている。	地域包括支援センターや民生委員には、運営推進委員会に出席してもらい、必要に応じ相談や助言を受けている。介護相談員を受け入れるなど協働に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要と判断した場合はご家族に状態を説明し、かかりつけ医に連絡、受診又は往診を依頼している	受診が必要と判断した場合はご家族に状態を説明し、かかりつけ医に連絡、受診又は往診を依頼している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は基本的には家族同行となっているが職員が代行したり、また家族に同行もして普段の様子や変化を伝えるようにしている。職員のみが付き添った場合は速やかに当日中に家族へ受診結果を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態の変化を報告を受け観察、再検、受診など必要な対応が出来ている	常に状態の変化を報告を受け観察、再検、受診など必要な対応が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重症の場合、緊急を要する場合など、かかりつけ医との連携で入院、退院など迅速に対応できている。又退院後の生活など、医療機関とも話し合いなど行い、よりスムーズな受け入れに心がけている	重症の場合、緊急を要する場合など、かかりつけ医との連携で入院、退院など迅速に対応できている。又退院後の生活など、医療機関とも話し合いなど行い、よりスムーズな受け入れに心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合についてご家族、かかりつけ医と話し合い、今後に向けての方針を共有するため検討を重ねている	重度化した場合についてご家族、かかりつけ医と話し合い、今後に向けての方針を共有するため検討を重ねている	これまでに看取りの経験はない。重度化した場合は事業所が対応しうる最大のケアについて説明しながら家族とは何度も話し合いを重ねている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるように、その都度意志を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時などその都度対応を検討し会議や連絡長などで確認しているのが定期的な講習や訓練の機会が必要である	緊急時や事故発生時などその都度対応を検討し会議や連絡長などで確認しているのが定期的な講習や訓練の機会が必要である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管内の消防署に指導・点検を受け、年に2回の避難・消火・通報訓練を全職員が参加して実施をしている。また、近隣の方をお願いをし協力を得られる体制を整えている。	管内の消防署に指導・点検を受け、年に3回の避難・消火・通報訓練を全職員が参加して実施をしている。また、近隣の方をお願いをし協力を得られる体制を整えている。	年2回、6月と12月に消防署も立会いで昼間(夜間想定)に避難訓練を行っている。消火器は全ての職員が使うことができる。非常食も3日分程度は備えている。家族には一時避難場所等も伝えている。	非常時には近隣住民の手助けは不可欠であることから、今後は更なる地域への協力呼びかけを期待したい。また、訓練の時間帯は昼間だけではなく様々な時間も検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	敬語を使い、相手の目標に合わせ、対応するよう心がけていくよう努力している。常に利用者様の思いを尊重した、受容の姿勢での言葉がけを心掛けている。	会議等では常に接し方や声掛けの仕方について話し合っている。朝の申送りでは声をあげて施設の基本理念を唱和し、一人ひとりがあるがままを大切に、心のこもった介護を目指している。	年長者として敬意をはらい、馴れ合いの中で入居者の尊厳を傷付けてはならないと事業所全体で常に配慮している。恥ずかしいことは決して行わない、入居者の守るべき情報は漏らさないなど職員の意識は高い。また、入居者の写真利用等についても入居の際に説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手との対話を重視し、最終的には自分で決定された事を尊重して、希望に添った支援を心掛けている。	個々の話をその場で傾聴する事を常に心掛け、要望を聞きだし自己決定の出来る雰囲気作りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲で本人様の希望にそのた支援を提供し、利用者様中心であるホームを目指している。	利用者の介護度、認知度等を把握し出来る限りの希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に身支度を整えたり(お正月は着物をきつける)、希望があれば化粧をするなどの支援をしている。	本人の好みに合わせその人らしいおしゃれが出来るようアドバイスして支援している。また、洋服などは一緒に買い物に行き好みの服など選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中、職員と入居者が談話しながら楽しく会話ができるような環境を日々努力している(本人のペースに合わせて食事摂取している)	誕生日季節の食事、行事の食事等は利用者と職員と一緒に準備片付け等に気配りしている	入居者は野菜の下ごしらえや茶碗拭きなど出来ることを自然な形で手伝っている。食欲はあり、希望者にはアルコールも提供している。食べたいメニューがあれば翌日から翌々日には対応している。	食は暮らしの場面としても重要であることから、職員は入居者と同じものを同じテーブルで一緒に食べてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合わせて食事の量、食べやすい大きさなど、常に栄養バランスのとれた食事を提供している	食事の量、栄養バランス、水分量等が、確保出来るよう一人一人の状態に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きを半介助、もしくは全介助にて行う、夜間、義歯の方は洗浄剤に浸けて対応している	口腔ケアも自立支援の一つとして声掛け援助をしている。また、曜日を決め消毒もし必ず確認する様になっている		

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価/ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを重視し、一人で困難な方については定期的にトイレ誘導(声掛け)している	自立されている利用者様もいらっしゃいます又時間を決め声掛け誘導をするようにしている	本人の生活リズムを把握し、さりげない誘導で支援している。失敗してしまった場合でもプライバシーに配慮しながら素早く対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつなどに乳製品を取り入れたり、毎食に食物繊維の多い食べ物を入れたりしている又主治医、看護師と常に連絡をとり服薬の調整、水分補給に取り組んでいる	食事やおやつ時牛乳や食物繊維の多い食材を摂取していただくようしている又主治医・看護師に連絡し利用者様に応じて服薬や水分補給をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際は一人ひとりの体調に合わせて、看護師と相談しながら対応(その際、皮膚疾患などないか観察している)している。なるべく気分良く入浴していただく為、希望に添った時間や順番に配慮している。	利用者様の希望でゆっくりと入浴していただくようになっている。必ず利用者様に確認し、希望に添った入浴の支援をしている。入浴を拒否される利用者様には、声掛けの仕方や順番、入浴剤を入れるなど、その日によって工夫している。	入浴は一日置きとなっているが、もう一方のユニットがその合間を入浴日としているため希望があれば毎日でも対応できる。時間帯は昼間となるが、楽しみとなるよう友人同士や入浴剤を使って工夫している。拒む方には間を置いた声掛けや職員のチームプレー等によって無理強いすることなく対応している。冬場の脱衣場は暖められており、脱ぎ着の介助は出来るだけ入居者に任せ職員は傍で見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や休息など本人の要望に合わせて対応している	昼寝屋休息は利用者様の希望にて場所等で気持ちよくとれるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個人ケースにファイルしている職員がいつも確認できるようにしている。主治医、看護師と常に意思交換し本人に合わせた薬の調整を行っている	利用者様一人ひとりのファイルにし職員が確認できるようにし、看護師が主治医と連絡し状態に合わせて薬の調整を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い時は日光浴や外出など行っている。カラオケや絵を描いたり本人の能力に合わせて行っている	喜びのある日を過ごす為におやつ作りや色塗り・線つなぎ・間違い探し・書道など行っている。又散歩や外出など気分転換もしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事に参加したりと天気と体調の良い時などは苑外へ出かけるように心がけている。また、利用者様に希望を聞き、外食に行くときには、送迎バスを利用している。	天気の良い日は散歩や季節に応じて外出花見等を行っている。又食事会での外食を楽しむなどの支援もしている	日用品やおやつや買い物では出掛けることも多い。周辺を散歩したり、隣接するデイサービスの施設を訪れたり、また春や秋など気候の良い時期には外食にも出掛け積極的な外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの機会は少ないが、本人がお金の大切さを理解してもらい、希望に応じて使える様支援している	少額ではあるが、希望に応じてお金を所持している利用者様もおられる。移動パン屋さんに来られる時には、好きなものを変えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人との手紙のやり取りは少ないが、本人の要望で自ら電話を出来るように支援している	年賀状など、希望される相手にハガキを出している。要望があれば自由に電話したり、携帯電話を所持されている利用者様は自由に電話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、居室、廊下より季節に応じた木々や花が見て頂ける環境にあり畳敷を設け家庭的な雰囲気を出せるよう工夫している	リビング、居室、廊下より季節に応じた木々や花が見て頂ける環境にあり畳敷を設け家庭的な雰囲気を出せるよう工夫している	居間に掛けられた入居者手作りの大きなカレンダーには、その月の特徴を表す貼り絵があったり、畳の部分にはお雛様が飾ってあったりと季節を感じるように工夫されている。入居者はソファやテーブル席など思い思いの場所で寛いでいる。共用の浴室、トイレ等もきれいに掃除され臭気は全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に和室があり、疲れたら横になられたりソファでは利用者同士で座ってお話しされたりテラスへ出て外が眺められるよう工夫している	ホール内に和室があり、疲れたら横になられたりソファでは利用者同士で座ってお話しされたりテラスへ出て外が眺められるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に応じて、ご自分の家具やベット、写真、遺影など持ち込まれている、又、テレビを持ちこまれている利用者様もおられる。	居室に応じて、ご自分の家具やベット、写真、遺影など持ち込まれている、又、テレビを持ちこまれている利用者様もおられる。	居室には馴染みの物が持ち込み、原則それに制限はない。お気に入りのカレンダーや家族の写真、ソファやテーブルなど入居者と相談しながら配置を決め居心地よく過ごせるように支援している。居室の掃除は毎日職員が行うが、洗濯物をタンスに仕舞うことなどは本人に任せ職員は見守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月カレンダー作りを利用者と職員が協力して作成してもらっている。習字・押し花など作成している。	毎月カレンダー作りを利用者と職員が協力して作成してもらっている。習字・押し花など作成している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない